

平成27年2月12日

世田谷区立船橋希望中学校
校長 徳 永 啓 介 様

世田谷区立船橋希望中学校
学校関係者評価委員会
委員長 君 島 光 司

平成26年度学校関係者評価結果報告書

学校関係者評価委員会において、「学校評価システム」に基づき、関係者アンケート調査の結果の分析や自己評価の結果及び授業等の観察などをもとに総合的な評価を行い、報告書を作成いたしました。その報告書の詳細は、以下のとおりです。

【関係者アンケート調査結果の分析の観点と評価について】

アンケート調査結果の分析については、全学年の結果とともに学年別の結果を以下の観点で評価した。

- 1 「とても思う」「思う」の割合の合計を「肯定的評価」と捉えた。
「肯定的評価」の割合が、生徒は60%以上、保護者は50%以上の項目を、「評価が高い項目」とした。
また、生徒は80%以上、保護者・地域は70%以上の項目と、「とても思う」の割合が30%以上の項目については、「特に評価が高い項目」とした。
- 2 「あまり思わない」「思わない」の割合の合計を「否定的評価」と捉えた。
「否定的評価」の割合が、生徒・保護者・地域ともに25%を超える（4人に1人が否定的）項目を、「課題がある項目」とした。
また、40%を超える項目や「思わない」の割合が20%程度の項目については、「特に課題がある項目」とした。
- 3 「分からない」の割合については、25%を超える項目に注目した。
「分からない」の割合が多い原因を検討するため、生徒については、校長・副校長などの教職員に意見を求めた。また、保護者については、アンケートの「記述式のまとめ」や保護者会等での資料などで学校の広報の状況を参考にして分析した。
- 4 船橋希望中学校の前年度アンケート調査結果と比較して検討した。
統合3年目であるので、船橋希望中学校の目標やそれを達成するための取り組みを適切に評価するため、アンケート集計結果の分析については、以下の2点で評価した。
 - ① 基本的には昨年度のデータとの比較検討し、昨年度と同様の上記の規準により評価するとともに、2年生の場合は昨年度の1年生のデータと、3年生の場合は昨年

度の2年生のデータ、一昨年度の1年生のデータと、学年進行を考慮した比較検討を行った。この報告書の（ ）内の数値は、昨年度の数値である。

- ② 生徒は60%以上、保護者は50%以上の「評価が高い項目」であっても、「否定的評価」の割合が25%を超える項目については「課題がある項目」と捉えて分析をした。

- 5 保護者アンケートの「記述式のまとめ」の内容については、1人の意見を重視しすぎて、全体の状況を見誤らないように配慮した。また、少数ではあるが重要だと判断した意見については、分析に活用することとした。

【アンケートの回収率について】

アンケートの回収率については、生徒95.0%(25年度94.3%)(24年度94.0%)、保護者71.0%(25年度64.7%)(24年度59.0%)、地域55.8%(25年度40.0%)(24年度37.0%)であった。

1 生徒について

前年度と同等の回収率である。前年度も記載したが、アンケートを回収できなかった生徒は、不登校またはその傾向にあり、アンケートに回答することができない状況であった。不登校またはその傾向の生徒へのアプローチとして活用することも検討されたい。

2 保護者について

「平成25年度学校関係者評価委員会の報告を受けた改善方策」を実施した結果、前年度より大幅に回収率は向上し、昨年度の目標である70%を超えた。

3 地域について

「平成25年度学校関係者評価委員会の報告を受けた改善方策」の「3. 地域関係者への配布先の見直しと回答率の向上」を実施した結果、アンケートの配布数と回収方法が改善され、前年度より大幅に回収率は向上した。

【関係者評価・教職員の自己評価等をもとにした本校の成果と課題】

I 重点目標への取組の成果と課題

生徒は、「8 重点目標および数値目標(独自項目)」〈教育目標について〉の(1)から(3)の項目で、保護者および地域は、「学校運営について」の(1)「学校の重点目標が明確である」の項目で評価した。

全般的には「評価が高い項目」である。

生徒は「学校教育目標」を意識して行動している。また、学年が上がるにつれて、肯定的評価が上がってきており、3年間を通してより一層浸透されるように努力が望まれる。

保護者および地域については、「平成25年度学校関係者評価委員会の報告を受けた改善方針」の「1. 学校全体にかかわる広報活動の充実」の取り組みの成果で、重点目標が浸透してきている。今後も、「学校だより」やホームページ等で広報活動に取り組み、生徒への指導の場面や保護者会等でより丁寧な説明に心掛け、重点目標の浸透を図ってほしい。

Ⅱ 地域とともに子どもを育てる教育の成果と課題

1 広報活動・情報提供

保護者は「8 広報活動・情報提供について」(1)から(4)の項目で、地域は「4 広報活動・情報提供について」の(1)～(4)の項目で評価した。

今年度の保護者アンケートの特徴として、1 から 12 の項目の全体を通して、「分からない」の割合が減少した。このことは、「平成 25 年度学校関係者評価委員会の報告を受けた改善方策」の「1. 学校全体にかかわる広報活動の充実」で、(1)「ホームページ」や「学校便り」による広報活動の充実、(2)ホームページの認知度を高める方策、(3)ホームページのPRの3点の改善方策が示され、今年度確実に実施された成果である。特に、広報活動・情報提供の4項目とも、一昨年度、昨年度より改善され、(3)および(4)については大幅に改善されている。

地域のアンケートも保護者と同様に、3点の改善方策が確実に実施された成果で、肯定的評価の割合が高い。

今後もホームページの一層の充実を図り、保護者・地域に対して情報発信のツールとして十分に活用されたい。

2 保護者・地域との連携

(1) 地域運営学校（学校運営委員会）

保護者・地域とも「地域との連携について」(4)で評価した。

学校運営委員会が開催された後に、「学校運営委員会だより」が発行されるなど、広報活動の成果で、保護者・地域ともに認知度が向上し、保護者・地域の意見を反映して運営していることが窺える。また、教職員の評価も高い。

(2) 学校協議会等

保護者・地域とも、「地域との連携について」の(3)の項目で評価した。

保護者・教員の肯定的評価は高いが、地域は否定的評価が高く「課題のある項目」である。保護者・教員は「十分な情報が提供されている」で評価したが、地域は「よく役割を果たしている」で評価したことで、評価の違いが表れた。

(3) 地域の人材や施設の活用

保護者・地域とも「地域との連携について」の(1)で評価した。

保護者・地域とも、「評価が高い項目」である。また、教職員の自己評価も高く、保護者・地域と教員に十分な情報が提供されており、広報活動の成果である。

(4) 地域行事等への参加・協力

保護者・地域とも「地域との連携について」の(2)で評価した。

教員の自己評価でも肯定的評価が80%と高いことから、保護者・地域からは教職員の参加・協力が評価されている。

(1)から(4)「保護者・地域との連携」は、4項目とも「評価が高い項目」であり、教職員の自己評価の評価も高く、保護者・地域との連携は良好である。また、前述のとおり広報活動の充実により、一昨年度、昨年度より、「分からない」の割合が減り、肯定的評価が増

えて改善された。今後も広報活動についてより一層努力して、保護者・地域に学校の情報が周知できるように努力してほしい。

Ⅲ 未来を担う子どもを育てる教育の成果と課題

1 学習指導

生徒は、「1 学習指導について」の4項目で、保護者は、「1 学習指導について」の4項目で評価した。生徒・保護者ともに「評価が高い項目」で、学校の取り組みは良好である。

生徒の学習指導全般については、「とても思う」の割合は昨年度とほぼ同様であり、子どもたちは現在の学習指導に概ね満足している。

教職員の自己評価も、昨年度と同様高い評価で、授業改善の取り組みが進んでいる。

しかし、昨年度も指摘したが、授業の開始・終了時間など日常の授業の状況については、なお一層の改善を図られたい。

保護者は、全般的に学習指導について肯定的な評価をしているが、授業を通して生徒に学力がついているかについては懐疑的である。また、学習に関して、まだ理解が十分でない生徒への対応として、家庭学習や補習など、学校の取り組み姿勢が理解されていない部分もある。

「教育活動の目標を達成するための基本方針」の「確かな学力をつける学校」にあるように、各学年の保護者の学校への期待度を把握し、家庭と連携して基礎的・基本的な知識・技能の定着、基礎学力の向上を図る必要がある。学校・学年の取り組みについて、丁寧に時間をかけて説明し、教職員は説明したことを実践していくことが重要である。

また、「平成26年度 自己評価報告書」の「V 未来を担う子どもを育てる教育の評価 1. 教育課程の実施にかかわる状況の評価及び改善方策 (2) 学習指導 (教科「日本語」、総合的な学習の時間も含む)」の③に、保護者に対して「学力の捉え方を啓発する必要がある」と記載されている。ぜひ保護者会等で「新しい学力観」について説明して、保護者の学力に対する意識を高めてほしい。

2 生活指導

生徒は、「2 生活指導について」の3項目で、保護者は、「2 生活指導について」の3項目で、地域は、「1 生活指導について」の2項目で評価した。

生徒の生活指導全般については、学年進行を考慮すると、各学年で改善されており、子どもたちは学校の規則を守って行動し、教師の指導にも納得して学校生活を送っている。このことは、昨年度と同様に、教職員の自己評価で、社会の一員としての自覚や生活ルールなどの指導を実践している評価が高いことが反映している。

保護者・地域ともに、昨年度は問題となる行動が増えたと感じていたが、今年度は大幅に改善された。特に保護者・地域ともに、地域での子どもたちの状況が改善され良好になっている。

今後も、学校で引き続き指導するとともに、各家庭で指導すべきところは指導し、学校・家庭・地域が協力して改善を図ってほしい。

また、保護者の(3)「本校の教員には、子どものことを相談しやすい」で、昨年度は課題

であったが、今年度は若干改善されてきている。今後も教職員が保護者と相談をする場合、聴く姿勢をもつことが必要である。

3 学校行事

生徒は「3 学校行事について」の3項目と「8 重点目標および数値目標（独自項目）」の(6)で、保護者は「3 学校行事について」の3項目と「12 重点目標および数値目標（独自項目）」の(6)で、地域は「2 学校行事について」の3項目と「7 重点目標および数値目標（独自項目）」の(1)で評価した。

生徒・保護者・地域の学校行事の項目は、一昨年度、昨年度と同様「特に評価が高い項目」である。生徒は、行事を楽しみにし、活躍するチャンス（場面）が多く、保護者は、子どもたちが活躍している様子などから学校の取り組みを評価している。また、地域からも船橋希望中学校の学校行事が高く評価されている。

これは、自己評価で、生徒の主体的な参加や行事の工夫・改善に取り組んでいる評価が高いことが反映しており、行事の内容が充実していることが分かる。

統合3年目を迎え、学級数や生徒数の安定が子どもたちにとっては良い結果になっている。今後も生徒一人一人の行事への取り組みせ方に改善を加えて、より良い学校行事になるよう努力してほしい。

4 キャリア教育・進路指導

「平成25年度学校関係者評価委員会の報告を受けた改善方策」の「2. 進路指導における情報提供の改善」で、生徒・保護者の対策を明示したことにより、保護者は大きく改善されてきているが、生徒は改善されていない。

生徒は、「4 進路指導について」の3項目で、保護者は、「4 進路指導について」の4項目で評価した。

生徒は、3項目とも、昨年度より肯定的評価が若干減少し、否定的評価が増加して、「課題のある項目」となった。しかし、教職員の自己評価では、全項目の中でも特に評価が高く、生徒の評価との乖離が非常に大きい。

この乖離は、教職員は計画的に「キャリア教育」の取り組みを実施し、情報提供や進路相談を丁寧に行っていると考えているが、その取り組みの中で、将来の生き方や進路について考えるということが生徒に意識させられていないことに起因していると考えられる。

キャリア教育の各取り組みでは、生徒に「進路指導＝キャリア教育」の一環としての目的を意識させ、学習に取り組ませることが必要と考える。また、実施時期についても再度の検討が必要と思われる。「世田谷9年教育」を踏まえ、小学校での「キャリア教育」との関連を図ることも検討されたい。

保護者は、広報の充実を図ってきた成果で、昨年度より4項目とも、「分からない」の割合が減り、肯定的評価が増えて改善され、全体として「評価が高い項目」になった。これは、前述のように、各学年での取り組みの周知と情報提供などに学校・学年が取り組んだことで、保護者は「進路指導＝キャリア教育」という認識に変化してきていると考える。しかし、保護者は、「塾」と同様に考え、面談では進学情報への期待が大きいと思われるので、「進路指導＝キャリア教育」についての更なる具体的な取り組みに期待したい。特に、

1・2年生では、生徒一人ひとりの個性や能力を基にした将来の職業などについての相談の機会が必要である。

教職員の自己評価と、この学校関係者評価アンケートの集計結果を基に、情報提供や生徒・保護者と相談の機会など学校・学年の取り組みについて、昨年度も検討するように要望したが、今年度は特に重点をおいて検討されたい。

5 体育・健康教育

保護者の「11 学校全般について」の(4)で評価した。

昨年度と同様、教職員の自己評価の肯定的評価は高い。また、広報活動の充実により、保護者の肯定的評価は10ポイントと向上したが、まだ乖離がある。体育の授業での「体ほぐし運動」などで体力向上に努めているが保護者に認知されていない。学校でどのような取り組みを実施しているかを広報する必要がある。

6 世田谷9年教育

生徒は、「7 学校全般について」の(3)で、保護者は、「8 広報活動・情報提供について」の(5)と「9 地域との連携」の(5)で、地域は、「4 広報活動・情報提供について」の(5)で評価した。

「世田谷9年教育」の「学び舎」で策定した『「学び舎」教育計画』に基づき学校運営を行っているが、『「学び舎」の活動』は教職員の交流が先行しており、生徒・保護者・地域とも「課題のある項目」となった。

今年度、生徒は「あいさつ運動」など生徒の交流も改善されてきている。しかし、一部の生徒の交流が主になっており、子どもたち全体の交流が進んでいない面もある。

しかし、保護者には、「広報活動の充実」の成果により、生徒の「あいさつ運動」や各小・中学校のPTAの交流などの活動が、「学校だより」等で提供された結果、「学び舎」が認知されてきている。地域も同様である。今後も、広報活動の充実を図り、教職員やPTAの交流、児童・生徒の交流などの様々な情報が提供されることで改善され则认为る。

7 部活動

生徒は、「5 部活動について」の3項目で、保護者は、「5 部活動について」の3項目で評価した。

部活動については、昨年度と同様、生徒数と教職員の増加により、生徒の希望が叶い、評価が高い項目になっている。施設面では、校庭は整備され、新校舎になり設備も充実してきた。既存の体育館等の施設や中学生として望ましい部活動の回数と時間についても、子どもたちの理解が深まってきている。

保護者も、部活動が適切な指導のもとに充実しており、子どもたちが活躍していると感じているが、2学期以降各部の中心となる2年生に対して、学校および各部の方針を、保護者へ周知していくことが必要である。

教職員の自己評価での部活動の活発さの肯定的評価が高いが、昨年度と同様、組織的実施の評価が若干低い。教職員の一部に、「全教職員で組織的に」実施できていないと感じている面があるのは、学校経営上の課題である。

IV 信頼と誇りのもてる学校づくりの成果と課題

1 学校経営・学校運営

学校経営・学校運営の項目は、一昨年度、昨年度と年々肯定的評価が上がり、高い評価を得ている項目である。また、年々「分からない」の割合が減少していることは、「学校全体にかかわる広報活動の充実」の取り組みの成果である。

保護者は「6 学校運営について」の(2)と(3)で、地域は、「3 学校運営について」の(2)で評価した。

学校経営・学校運営に関しては、保護者・地域から高い評価を得ている。校長がリーダーシップを発揮して学校運営や教職員の指導にあたり、学校の取り組みや教職員の姿勢が高く評価されている。また、昨年度と同様、校長を中心に教職員が協力して教育活動に取り組んでいることは、教職員の自己評価からも窺える。

今後も広報活動に取り組み、学校経営・学校運営や教育活動について、保護者・地域に発信していただきたい。

2 教職員

生徒は、「6 先生について」の3項目で、保護者は、「7 教員について」の2項目と「12 重点目標および数値目標（独自項目）」の(5)で、地域は、「3 学校運営について」の(3)と(4)の2項目で評価した。

今年度も、教職員が様々な場面で熱心に指導しており、生徒・保護者ともに教員の指導には満足している。しかし、教員の指導の公平性や聴く姿勢については、生徒の評価は分かれ、昨年度と同様課題が残った。指導場面や対応時の状況によって、生徒一人一人の受け取り方や感じは大きく左右されることがあるので、数値のみでの判断は難しい。また、(2)と(3)の項目の関連の分析では、生徒一人一人に対して、教師は様々な場面できめ細かく丁寧な対応を行っているが、全体の指導場面での教師の言語環境の整備や指導方法が課題であると考えられる。教職員の指導の意図が子どもたちに理解される工夫が望まれる。

教職員の対応については、保護者は「8 広報活動・情報提供について」の(2)「本校は、保護者に対し、ていねいに説明や対応をしている」の評価も併せて考察した。この項目の肯定的評価 89% (80) も併せ、地域の評価と総合的に判断すると、保護者・地域に丁寧な説明や対応で高い評価を得ていることは教職員の日常での努力の賜物である。今後も言語環境に配慮し、生徒の見本となる社会人として、教育活動に取り組んでいただきたい。

3 保健・衛生管理（学校環境・学校給食）

保護者の「10 学校の安全性について」(5)で評価した。

今年度より新校舎での教育活動が始まり、学校環境・学校給食について、学校が生徒の安全確保に努力していることが認知されている。また、今年度は「分からない」の割合が 18% (28) で保護者の認知も高まってきている。新校舎落成に伴う校内見学などでの成果である。

4 安全管理

保護者は「10 学校の安全性について」の(1)から(3)の項目で、地域は「6 学校の安全性について」の(1)・(2)の項目で評価した。

学校の安全性については、今年度より新校舎での教育活動が始まり、学校で生徒の安全確保に努力していることが認知されている。安全指導・避難訓練や災害時の保護者・地域との協力など「評価が高い項目」であり、昨年度と同様に学校の取り組みが理解されている。また、地域の避難所としての役割が十分に理解されている。

V 教育環境の整備の成果と課題

保護者は「10 学校の安全性について」(4)で、地域は「6 学校の安全性について」(3)で評価した。

施設・設備の安全性の確保については、新築された校舎および整備された校庭になり、また校舎見学などにより、肯定的評価も高まり、「分からない」の割合が低くなった。安全性が大幅に高まったとの認識が保護者・地域に浸透している。

今後も施設・設備の状況について、保護者・地域に校舎見学の機会や「学校だより」などによる広報の充実に期待したい。

VI 学校生活全般の成果と課題

生徒は「7 学校全般について」の(1)と(2)の2項目で、保護者は「11 学校全般について」の(1)から(3)と(5)の4項目で評価した。

学校全般については、教職員の様々な努力により、生徒は現在の中学校生活に満足している。しかし、進路指導などで、生徒が満足していない教育活動を抽出して、対策を検討することが今後の課題である。今後も子どもたちにとって、「好きな学校」「楽しい学校」であり続けるように、教職員の様々な努力を継続していただきたい。

保護者についても、子どもたちが楽しい学校生活を送り、学校全体に活気があると感じている。また、教育活動全般に対する満足度は概ね良好である。しかし、学習指導、進路指導などで、保護者の満足していない項目を抽出して、対策を検討することが今後の課題である。また、保護者には、なお一層スクールカウンセラーの役割を周知する必要がある。

VII 数値目標の取組の成果と課題

平成26年度の3つの数値目標について、それぞれ評価した。

- 1 人間的な触れ合いを深める環境をつくるとともに、コミュニケーション能力を高め、豊かな心の育成を図る。

「運動会や学芸発表会では、本気に取り組み、達成感を得ることができた」と実感できる生徒を80%以上にする。

生徒は「8 重点目標および数値目標（独自項目）」(6)で評価した。

(6)「運動会や学芸発表会では、本気で取り組み、達成感を得ることができた」の肯定的評価は89% (88)、「とても思う」53% (53)であり、「特に評価が高い項目」である。

保護者は「12 重点目標および数値目標（独自項目）」(6)で評価した。

(6)「子どもたちは、運動会や学芸発表会で意欲的に取り組んでいた」の肯定的評価は 97% (96) で、「特に評価が高い項目」であり、学校は保護者の期待に応えている。

2 日々の授業を充実させ、生徒一人一人に確かな学力を身につけさせる。

「授業の内容が理解できる」と実感できる生徒を 80%以上にする。

生徒は「1 学習指導について」(1)で評価した。

(1)「授業の内容はよく理解できる」の肯定的評価は 83% (80) で「特に評価が高い項目」であり、今年度は目標を達成している。また、否定的評価も昨年度より今年度は改善された。教員が改善に取り組んだ成果である。

保護者の「1 学習指導について」(1)で評価した。

(1)「本校は、子どもにとってわかりやすい授業が行われている」の肯定的評価は 66% (63) で、否定的評価は 19% (19) であり、「分からない」は 16% (18) であった。「分からない」は一昨年度の 25%から大幅に減少した。個別の学年では課題があるが、「評価が高い項目」である。

3 基本的な生活習慣を確立させ、自己実現を図るための強い心を育てる中で、一人一人が大切にされ、お互いが認め合い協力しあえる集団を育成する。

「学校のきまりを守って行動している」と自覚できる生徒を 90%以上にする。

生徒は「2 生活指導について」(1)で評価した。

(1)「わたしは学校のきまりを守って行動している」の肯定的評価は 88% (86)、「とても思う」が 33% (35) と「特に評価が高い項目」であり、目標はほぼ達成されている。生徒は学校の規則を守って行動し、教職員の指導にも納得して学校生活を送っている。

保護者は「2 生活指導について」の(1)で評価した。

(1)「本校では、社会のルールを守ることについて子どもたちに指導が行われている」の肯定的評価は 73% (78) と割合が高く概ね良好であり、「特に評価が高い項目」であるが、年々肯定的評価の割合が減ってきている。昨年度課題であった(2)「本校では、子どもたちの問題となる行動が少ない」は、肯定的評価は 71% (57)、否定的評価は 15% (26) で、肯定的評価も否定的評価もが大幅に改善している。

地域は「1 生活指導について」の(1)で評価した。

(1)「通学している子どもたちは、社会のルールを守っている」の肯定的評価は 85% (75) で、地域での生徒の状況は極めて良好である。

以上のことから、校内外で生徒はルールを守って生活している。

VIII 独自項目の成果と課題

生徒の「8 重点目標および数値目標（独自項目）について」の 10 項目について、「学校教育目標について」「日常生活や学校生活について」「家庭・地域との連携について」の 3 観点にまとめて検討し、評価した。

保護者の「12 重点目標および数値目標（独自項目）について」の 10 項目については、

「保護者と子どもとの関係」「保護者と学校・教職員との関係」「学校や地域での子どもの様子の把握」の3観点にまとめて検討し、評価した。

地域の「7 重点目標および数値目標（独自項目）について」の6項目については、「学校での生徒の活動について」「地域での生徒の活動について」「地域の方々の来校頻度」の3観点にまとめて検討し、評価した。

生徒・保護者・地域の独自項目は、各項目とも概ね高い評価である。

学校教育目標の周知とその定着への取り組みについて、生徒は「学校教育目標」を意識して行動している。また、学年が上がるにつれて、肯定的評価が上がってきており、生徒には徐々に浸透してきている。3年間を通して「学校教育目標」がより一層浸透されるよう、教職員の努力が望まれる。

保護者・地域は「Ⅰ 重点目標への取組の成果と課題」で評価した通りである。

生徒の学校内外での活動や学校の取り組みについては、生徒・保護者・地域とも概ね高い評価である。

学校が重点としている清掃活動や挨拶は、生徒は「特に評価が高い項目」である。特に挨拶については、生徒は日常生活で挨拶に心掛けている。また、保護者も生徒が「挨拶をよくしている」と判断しており、地域でも生徒の「マナー（挨拶、話を聞く態度など）は良い」と判断していることから、挨拶などのマナーに問題はない。日常生活での指導と学校の取り組みの成果である。また、相談できる相手を得ることは「心の安定」の面からも重要であるが、多くの生徒が相談できる相手を得ていることで、安定した学校生活が送れている。

学校での生徒の活動については、「朝読書」では、生徒は熱心に取り組んでおり、保護者・地域も継続の要望が高い。「少人数授業」でも、保護者・地域の継続の要望が高い。生徒についても、「学校での学習についての生徒アンケート（11月21日実施）」の結果から考えると、少人数授業に関して高く評価している。今後も継続されることを、生徒・保護者・地域とも要望している。しかし、「学校関係者評価」アンケート結果（否定的評価26%）について、各教科でさらに検討をされたい。

ボランティア・地域活動への参加については、生徒・保護者はあまり参加していないと考えているが、地域は子どもたちがよく活動していると評価している。生徒・保護者は係活動をしていないと「参加」でないと考えている状況があるので、その改善のためには「参加」の内容を生徒会や「学校だより」などで広報することが必要である。

保護者と子どもとの関係については、前述の通り「子どもと話す機会」は多いが、学校での「学習の様子など」や学校からのプリント類については、話題にならない家庭があるということであろう。

保護者の来校頻度については、個別の学年で課題があるが、概ね良好であり、地域に関しては極めて良好である。

【学校関係者評価委員会の総合所見】

今年度も、全体として生徒・保護者ともに「評価が高い項目」が多く、成果が上がった1年であった。これは、昨年度の調査結果を踏まえ、「平成25年度学校関係者評価委員会の報告を受けた改善方策」で、広報活動の充実を図るなど、校長のリーダーシップのもと、教職員が様々な努力して改善を図った結果である。

生徒は、学校生活の基盤となる学習指導、生活指導、学校行事、部活動のほとんどの項目で、全体として前年度の調査を上回る結果であったことから、現在の中学校生活に満足している。このことは、教職員が、教育活動で協力し合いながら様々な取り組みを行い、工夫と努力を重ねた成果である。

保護者は、全般的には生徒と同様、多くの項目で前年度の調査を上回る結果であった。特に、一昨年度、昨年度は「分からない」の割合が高い項目が多くあったが、今年度は大幅に改善されている。これは、広報活動の充実を図ったことにより、保護者に必要な情報を提供するなど、「改善方策」を実践した結果と考える。特に課題であった「進路指導について」は4項目とも「分からない」の割合が減り、肯定的評価が増えて、全体として「評価が高い項目」に改善された。

昨年度、生徒・保護者で課題が見られた2年生については、3年生に進級しても課題が残った。保護者の様々な不安や不満が払拭されていない様子が窺えたことは残念である。学年が進むにつれて改善されるように、学校として検討されたい。

地域では、全般的に船橋希望中学校の評価は高く、期待も大きい。

教職員の自己評価については、昨年も指摘しているが、生徒の変容をしっかり捉えて自己点検をする必要性を感じる。

今年度の学校関係者評価の結果での課題は、以下の3点である。

第1は、生徒の「進路指導」である。

進路指導については、「改善方策」の「2. 進路指導における情報提供の改善」で示された方策に従って、進路指導の充実を図ってきていたが、昨年度より肯定的評価が若干減少し、否定的評価が増加して、3項目とも「課題のある項目」である。また、個別の学年では否定的評価が50%前後となっている。しかし、教職員の自己評価では、年間計画に基づき計画的に「職場体験」などを実施し、情報提供や進路相談を丁寧に実施したとして、全項目の中でも特に評価が高く、生徒の評価との乖離が非常に大きい。

この乖離は、教職員は計画的に「キャリア教育」の取り組みを実施し、情報提供や進路相談を丁寧に実施していると考えているが、その取り組みの中で、将来の生き方や進路について考えるということが生徒に意識させられていないことに起因していると考えられる。

「キャリア教育」の授業は、道徳、特別活動、総合的な学習の時間などで実施されているが、各授業の「ねらい」を生徒に意識させるとともに、各学年の取り組みと関連付けることが重要であると考え。このことから、日常の授業で実施する「キャリア教育」の授業と、職業講話、職場体験、上級学校訪問などの実施時期についても再度の検討が必要と思われる。また、「世田谷9年教育」を踏まえ、小学校との関連を図ることも検討したい。

第2は、「学力」についてである。

生徒は「授業の内容はよく理解できる」「先生は黒板の書き方やプリントを工夫し、わかりやすい指導をしている」の評価は高く、授業を通して学力がついていると感じている。

また、教職員の自己評価の学習指導では、大部分の項目が高い評価で、工夫・改善を図りながら計画的に適切に授業を実施している。

しかし、保護者は「本校は、授業をとおして、子どもたちに学力がついている」の肯定的評価は、昨年度から少し改善が見られたが、否定的評価については改善が見られず、「課題がある項目」である。昨年度と同様に、学習内容や学習指導に対する保護者の期待に応えられていないことが課題である。また、学習に関して、理解が十分でない生徒への対応として、家庭学習や補習など、学校の取り組み姿勢が理解されていない部分もある。

各学年の保護者の学校への期待度を把握し、家庭と連携して基礎的・基本的な知識・技能の定着、基礎学力の向上を図る必要がある。また、保護者に対して「学力の捉え方を啓発する必要がある」と「平成26年度 自己評価報告書」に記載されているように、ぜひ保護者会等で「新しい学力観」について説明して、保護者の学力に対する意識を高めてほしい。それとともに、学校・学年の取り組みについて、丁寧に時間をかけて説明し、教職員は説明したことを実践していくことが重要である。

第3は、「世田谷9年教育の『学び舎』の活動」についてである。

「世田谷9年教育」の「学び舎」で策定した『『学び舎』教育計画』に基づき学校運営を行って、3年目になる。今年度は、生徒の「あいさつ運動」などで子どもたちの交流が増え、改善してきている。また、保護者・地域には、「広報活動の充実」の成果により「学び舎」の活動が認知されてきている。しかし、現状は教職員の交流に重点がおかれているため、生徒・保護者・地域とも「課題のある項目」となった。

「学び舎」の活動について、子どもたちの交流は関係小学校との調整もあり、一朝一夕に実現するものではない。また、PTAの交流も同様であり、単年度では評価が大幅に改善されるとは考えられない。各年度の目標を確実に実施するとともに、設定されている中長期の目標を着実に一つ一つ実施されることが望まれる。

今年度のアンケート集計結果では、一昨年、昨年度と年々改善されてきている。これは、校長のリーダーシップのもと、よりよい学校を作ろうとする教職員が、さまざまな教育活動に取り組み、真摯に努力した結果であり、その努力が生徒・保護者・地域の評価を得ているものであると考える。

今後も生徒にとって、「好きな学校」「楽しい学校」であり続けるように、より一層のご尽力を期待する。